

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4071100939		
法人名	有限会社 めぐみ		
事業所名	グループホーム めぐみ		
所在地	〒811-1355 福岡県福岡市南区松原1丁目17番16号 Tel 092-554-7633		
自己評価作成日	平成30年12月12日	評価結果確定日	平成31年02月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	平成31年01月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

他施設で入居困難な医療ニーズの高い方、終末期を望む方を受け入れております 人員にも看護師を配置して御家族の方の普通の家で最後をと望む声に対応しております その為にも私達なりに出来る事をかかりつけの医師、訪問看護の方々と力を合わせて支援しております 一方で他入居者様にもより家庭的な支援を心掛けております

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「めぐみ」は、福岡市南区郊外の住宅街の中に周りの民家に溶け込むようにして建つ、1ユニット定員9名のグループホームである。町内会に入り、地域の清掃活動や公民館で行われている茶話会に利用者と一緒に参加し、開設17年目を迎える中、地域の一員としての交流を継続している。協力医療機関、系列の訪問看護、事業所内にも看護師を多く配置し、ベテランの介護職員との連携で安心の医療体制が整い、医療ニーズの高い認知症高齢者への対応、看取り対応が可能な点が強みである。重度化が進んでも、楽しい暮らしを心掛け、親しみやすい職員との会話、レク活動、多彩な外出の機会を設けている。利用者の食べたい物を聞きながら、旬の食材を使って職員が交代で作る家庭的な食事とホーム内に溢れる笑いが、平均7年という長い入居年数に繋がり、家族を始め関係機関からの信頼も高い、グループホーム「めぐみ」である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝、申し送り時に理念を復唱することでスタッフ間に共有し意識を高め、カンファレンス時に自分たちのケアを見直し理念とのずれがないかを話し合っています。ご近所様、来訪者との交流を図り入居者様が安心、安全に過ごせるケアを実践しています	法人全体で目指している理念を、玄関や事務所等、目にふれやすい場所に掲示し、毎日の朝礼時に読み上げて理念の共有に努めている。職員は常に理念を意識して、利用者一人ひとりの「その人らしさ」を大切にしたい介護サービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流の場への参加、ご近所様や来訪者との会話、電話での相談対応などの際、認知症やグループホームへの理解を促し地区の総会や茶話会などで来訪の声掛けをしています	町内会に入り、総会や清掃活動に参加している。隣近所の方への挨拶、ボランティアの受け入れ、公民館で行われている茶話会に利用者に参加する等、地域の方との交流に努めている。地域ケア会議に参加して、地域の為に出来ることを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災時の呼びかけや町内行事への参加、地域ケア会議へも参加し、情報交換を得て意見交換しサービス向上に努めています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他施設の運営会議への参加や、法人内他施設管理者や保護課担当者に参加してもらい会議の充実を心掛け、会議の議事録をご家族に送付しています	運営推進会議は、民生委員、成年後見人、地域包括、保護課職員等の参加を得て開催している。入居状況や行事等、サービス提供の報告を行い、参加委員からは、質問や意見、情報提供を受けている。会議の内容を議事録にまとめ、家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議への参加、他施設からの問い合わせ対応、包括センターや保護課・医療関係との情報交換を行っています。市町村との連絡にも心掛けております	運営推進会議に、地域包括支援センターや保護課からの参加を得て、意見や情報交換を行い、協力関係を築いている。空き状況や事故の報告を行う中でのやり取り、地域ケア会議への参加を通じて、行政、地域包括と連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフの身体拘束の研修への参加、法人内施設合同での3ヶ月に1回の身体拘束委員会の実施に加え、施設内・法人内でも研修や勉強会を開きリスクマネジメントマニュアルなどにより拘束のないケアを行っています	3ヶ月に1度、身体拘束委員会を開催し、職員への内容の周知を徹底して行っている。身体拘束についての外部研修を受講した職員が内部で伝達研修を行い、禁止の対象となる具体的な行為についての正しい理解と意識づけを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル・勉強会・意見交換により、日常的にスタッフ間で声を掛け合い、注意を払い虐待防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者様もおり、後見人の司法書士や民生委員・包括センターの説明を受け施設内でも勉強会を開き活用出来るようにしています	権利擁護の制度を活用している利用者があることから、後見人とのやり取りの中で、制度に関する理解を深めている。また、後見人である司法書士による勉強会を実施する等、学ぶ機会を設けている。必要時には、制度の内容について説明し、それらを活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に自宅や入院先を訪問し、ご本人や御家族・関係者と情報交換を行い契約の際には細やかな説明を行っています		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近況報告はもちろん、行事などへの来訪の声掛けを行っております。来訪時や電話連絡の際ご家族のご意見や希望を伺いプランに反映しています	職員は日常の関わりの中で、利用者の意見や要望を聴き取り、出来るだけ反映させている。家族については、面会時や行事参加の時に、コミュニケーションを取り、家族の意見や要望を聴いている。面会の少ない家族には、電話での連絡を密に行い、意見や要望を聴き取っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議やカンファレンス、定期研修・勉強会など定期的に行い、意見交換の場を作っております	カンファレンスを毎月開催し、何でも言い合える雰囲気の中で、活発な意見交換が行われている。出された意見や要望を検討し、出来る事から速やかに実行し、職員が意欲的に働ける職場を目指している。また、毎月「今月の目標」を定め、重点的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修への参加、介護関係の資格習得を促し、給与基準を改善を行い、可能な限り休日の希望も聞いております		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢性別に関係なく、その職員にあった業務に個性を生かし取り組めるような雰囲気づくりに努めており、法人での外部研修・施設内研修と伝達も行い、スキルアップを目指しています	職員一人ひとりの個性や得意分野を活かした役割分担を行い、職員が力を発揮して生き生きと働けるよう配慮している。職員の募集は年齢や性別の制限はせず、チームワークを大切に、働きやすい職場を目指している。外部の研修会に交代で職員が参加し、知識の習得と意識の高揚を図っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法的遵守や人権問題などに関する研修や勉強会を行っております	研修会やカンファレンスの中で、利用者の人権を尊重する介護について常に話し合っている。利用者一人ひとりの個性や生活習慣を大切に、職員間で情報を共有しながら、言葉かけや対応に配慮し、利用者がその人らしく生活できる介護サービスの提供に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの長所、短所、得意分野や相性を把握するとともにスタッフ間での指導をしたり外部研修での伝達講習を行っています		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設の見学や地域ケア会議への参加、町内会の集まりなどで意見交換や施設情報の確保しつつサービス向上に努めています。全国のGH大会や地域GHの交流会などで他施設の人と意見交換をしています		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設、病院、自宅を訪問し、ご家族、関係者と情報交換しご本人の意向も踏まえ雰囲気づくりや生活の留意点を把握し入居時の不安解消に努めています		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記のとおり入居前の訪問と面談で家族の希望・ご本人の思考・歴史を知り、ご本人の意向などをプランに反映しています		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で、現状況、御家族の意向を十分把握した上でプラン作成しサービスの説明も十分に行っています		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される側とする側ではなく、なじみの関係性を作り、家族的な雰囲気づくりに努めています		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフの年齢層が高いので、ご家族の相談相手になれるよう、来訪時や現況報告の際に声掛けをしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の御家族や友人の方々の電話や来訪時は、近況報告を行い、24時間オープンで来訪していただけることをお伝えしております。希望時は外出の付添も行っています。配偶者がいらっしゃる方は定期的な面会等をお勧めしています	友人、知人、家族の面会を歓迎し、居室でゆっくり話ができるように配慮し、いつでも面会できるように支援している。遠方での親戚の集まりに職員が同行して参加したり、家族の協力を得ての墓参、地域の茶話会への参加等、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや誕生会、季節行事など交流を図り、スタッフ・入居者様同士支え合っています		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後、入居者様ご家族が立ち寄って下さったり、お電話やお手紙など頂いております。また他施設へ転居したり、入院された方へは相手方の迷惑にならぬ範囲で面会に行っています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の生活リズムや行動を把握し、各入居者様の対応時気づきノートを作成し情報共有プランに反映しています	利用者の言葉等、日々の関わりの中での気づきを連絡帳に書き留め、職員間で情報を共有している。意向表出が難しい利用者には、家族と職員間で相談しながら利用者に寄り添い、思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の暮らしてきた環境や時代背景をご家族の話や日々の生活の中その方の言動などから察しながら把握に努めプランに反映しています		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ全員で入居者様の個性や思考など身体的、精神的状況の把握に努めています		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議・運営会議・カンファレンス・スタッフミーティングにより介護プラン作成に反映しています	家族の面会時や電話等で家族の意見や要望を聴き取り、カンファレンスの中で検討し、利用者本位の介護計画を3～6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態に変化があった場合には、家族や主治医と相談し、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に具体的に記録しカンファレンスやプラン見直しに活かせるようにしている情報の共有は連絡ノートや管理日誌、申し送り徹底している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族的な雰囲気大切に、入居者様が気遣いせず何でも話せる雰囲気づくりをしています。状況に応じ出来る限りのサービスを提供しています。法事や家族の集まりへの参加の付添・病院や買い物付添など		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	茶話会や地域行事への参加、コンビニ・スーパーへの買い物など入居者の方々が出来るだけ豊かに暮らせるように心がけています 地域の防災訓練や小学校の行事などに参加		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様全員提携医による2週間に1度の往診と緊急時往診や提携病院と協力体制を取り、又、救急病院への迅速な紹介により支援しています	入居時に利用者や家族と話し合い、主治医を選択して貰い、ほとんどの利用者は2週間毎の往診が整っている協力医療機関を主治医としている。訪問看護師と看護師によるきめ細かな健康チェックを行い、主治医と協力関係を築き、安心して任せられる医療連携が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設内にも看護師がおり、訪問看護による指導・相談を、適宜に実施し、研修・講習などを実施しています		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の送迎はもちろんの事、入院中の面会や洗濯など行い、病院との情報交換を蜜にし、ご家族との連携を取りながら緊急時の協力体制の充実を図っております。又、退院カンファレンスへも参加し、Dr.とも事前に調整して受け入れております		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の入居者様に関しては医師と看護師の指導による対応と終末期のご家族の意向を元に主治医と綿密な情報確認をしながら支援に取り組んでいます。早期から終末期について説明し、希望される方とは書面にて確認しています	ターミナルケアについては入居時に説明し、希望を聴き取っている。利用者の重度化が進むと、家族、主治医、訪問看護師、ホーム看護師、介護職員が連携し、情報を共有しながら、利用者が安心して終末期を過ごすよう、チームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時には対応マニュアルによる対応と医師、看護師の指導による実践教育と医療関係への迅速な連携を実施しています		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練、地域の防災訓練や講和への参加、近隣の方への声かけ防災マニュアルに添って訓練を実施しています	消防署の協力と参加を得て、日中、夜間想定避難訓練を年2回実施している。地域の防災訓練に参加し、地域との相互協力体制を築いている。防災用ヘルメットを利用者全員分用意し、多めの食材を常に準備しておく等、非常災害時を意識した備えに取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個性や人格・プライバシーの尊重を重視し、声掛けや介護・介助支援を行っています	利用者のプライバシーを守る介護サービスについて、職員間で話し合い、利用者の個性や生活習慣に配慮した言葉遣いや対応に取り組んでいる。入室時には必ずノックをする事を徹底し、脱衣所が狭いため、カーテンを利用してスペースを確保する等、工夫しながら対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の言動や行動を察知し、スタッフ全員で対応し情報を交換し合い、入居者様が自己決定できるよう支援しています		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な雰囲気づくりをし、入居者様の意向を大切に、その方にあった生活づくりを支援しています		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目に早めの衣替えの支援をし清潔感のある本人様の希望に添った洋服や身だしなみの支援を行っています		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや体調に合わせ、調理法や形態を変えたり、旬の食材を使い季節感を感じて頂く様工夫をしています。メニューも出来るだけ季節感のあるものを取り入れるようにしています	「今日は何が食べたいですか？」と聞いて、メニューが重ならないように気をつけながら、冷蔵庫の中の食材を見て作り、利用者と職員と一緒に食べる家庭的な食事の在り方を大切にして取り組んでいる。行事や誕生日には、特別の食事を提供し、年に1、2回の外食の機会等、食べることを楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の全身状態の把握に努め、季節や状態に合わせて水分量を設定しその方の習慣や好みも踏まえ支援しています		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科往診に加え毎食後の口腔ケアを実施しています		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用をなるべく減らし時間毎のトイレ誘導と個々の行動パターンの把握で誘導を心掛けて入居者様のペースに合わせて自立への工夫をしています	利用者が重度化してもトイレで排泄することを基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、タイミング良く声掛けや誘導を行い、失敗の少ないトイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、夜間はポータブルトイレを利用する等、安全に配慮しオムツ使用の軽減にも取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は消化の良い物や食物繊維を含む物を使用し水分摂取に心掛け運動や体操、主治医による指導を受けて下剤服用など便秘解消の工夫をしています		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の全身状態や意向を重視し無理強いをせず希望に添って入浴を行っています	入浴は利用者の希望や体調に配慮して入浴支援に取り組み、週2～3回を基本とし、ゆっくり湯船に浸かってもらい、職員と会話しながら楽しい入浴が出来るように取り組んでいる。また、入浴を拒否する利用者には、時間をずらして声掛けしたり、清拭や足浴に変更して、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の睡眠状態を観察、把握し、時には添い寝を行い流民出来る様に努めています		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期往診にて届けられた薬は薬剤師や看護師の指導でスタッフにより処方箋と照らし合わせて正確な投薬をしています。副作用の早期発見努めています		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事や地域交流行事、1日の流れ(掃除、洗濯、買い物など)に合わせ過ごして頂くが室内カラオケや音楽鑑賞、天気の良い日には庭に出たり散歩など心がけています		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば職員の付き添いでの買い物、行事への参加、天気の良い日には散歩など支援しています。又家族とご本人の希望が合えば、外出・外泊支援も行っています	重度化しても、美しいものを見ることは大事と考え、季節の花見には出来るだけ出かけている。毎年2回、法人全体のレクリエーション(ミカン狩り、花見)に出かけ、普段行けない所への外出を楽しんでいる。日常的には、散歩やスーパーに買い物に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関してはご家族や行政関係者にお願ひし金銭管理は行っておりませんが、入居者様の希望があれば後請求で買い物など行っています 買い物の付き添いは通常している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があれば電話の取次ぎや手紙の代筆、郵送の支援を行っています。ご家族に対しては電話や請求書と共に施設内通信や連絡事項、近況報告の手紙を添え郵送しています		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅街の一角にある一軒家の改装で、昭和の香りを残す家庭的な作りで裏庭があり季節の花々を植え「自分の家」を思わせるような雰囲気を持っています	民家改造型の限られたスペースを、職員の創意工夫によって、安全で少しでも心地よく過ごせるよう、整えている。裏にある日本庭園、プランターに花を植える等、季節を感じながら、自宅のように暮らせるアットホームな共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	民家改装ホームで空間の確保が難しいですが、出来るだけ空間を有効に使い入居者様には本人様の居室やリビングで思い思いに過ごしていただけるよう工夫しています		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前よりご家族にお願ひし、ご本人様が使われていたものを持って来て頂き、住み慣れた雰囲気作りを工夫しています	入居前に家族と話し合い、利用者が使い慣れた家具や寝具、仏壇や家族の写真等を持ち込んでもらい、動きやすいように配置して、利用者が安心して過ごせるよう、配慮している。また、利用者の状態によっては、部屋替えをお願ひする等して、安心、安全に過ごしてもらえるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立した生活を過ごして頂くように居室に危険物は置かず残存能力を生かし「出来ることは自分で」をもっとうに過剰な介護はしないよう、スタッフ全員でミーティングなど行い統一した介護を心掛けています		